

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第

卷十三第

行發日一月六年五和昭

論叢

給料税(所得税に於ける給料の源泉課税としての)論

購買力平價説の一考察

時論

株式配當金の源泉課税

説苑

ラッセル氏の「價格形成の機構」の吟味

銀行の信用膨脹に就て

中位數の本質

雜錄

世界的農業恐慌に關する二見解

租税負擔の地方比較と人口割法

需要彈力性の測定

チエコスロバキアに於ける生計調査に基づく租税負擔

標準食觀

附錄

近着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十卷總目錄

(禁轉載)

神戸正雄

高田保馬

汐見三郎

柴田敬

中谷實

益田熊雄

八木芳之助

中川與之助

高森晋

村川達三

財部靜治

雜 録

世界的農業恐慌に關

する二見解

八木芳之助

一 緒 言

茲に謂ふ所の農業恐慌とは、多數の農民をして損失に因て農場を失はしめ、又多くの農村を荒廢に歸せしむべく嚇す所の農産物の價格構成狀態、竝に之より結果する所の農家收入の損失狀態を總稱するものである。¹⁾而して斯る意味の世界的農業恐慌（東洋方面の米作地方を除く）は、一八七五年乃至一九〇〇年と戦後一九二〇年以後とに於て起れるものである。此等二つの農業恐慌の原因に關しては、既に多くの論争の存する所であり、殊に戦後の農業恐慌の眞の原因に就ては尙ほ未決の問題に屬する。²⁾此の點についてゼーリング

とスツデンスキイとは夫々異なる見地より之を説明せんと試みてゐる。而して兩者の見解を比較論評するは甚だ興味あることと考へらるゝが故に、以下少しく兩者の見解を紹介しつゝ、之に就て論及するであらう。

二 一八七五年乃至一九〇〇年の

農業恐慌に關する兩者の見解

ゼーリングの理論の根本的思想は次の如くである。

即ち農産物價格は、資本主義經濟組織の下に於ける工業品價格の如く、規則的循環及び遞減的價格景況に由て支配せらるゝものにあらすして、寧ろ天候に由て著しく左右せらるゝ所の收穫に從て變動するものである。併し乍ら大體に於て農産物の價格變動は、一方未墾地の開拓速度の如何に由て決定され、他方その購買力を高め又は低める工業國の經濟狀態を變化せしむる所の歴史的事件に依て決定される。³⁾ゼーリングは一八七五年乃至一九〇〇年の農業恐慌を全く未墾地の開拓速度を以て説明せんとしてゐる。彼は世界的農業發展をば説明するに、所謂リカドウの收穫遞減法則を以てし、

- 1) M. Sering, Agrarkrisen und Agrarzölle. 1925. S. 7.
- 2) Edwin R. A. Seligman, Economics of farm relief. 1929. p. XIV.
- 3) M. Sering, Internationale Preisbewegung und Lage der Landwirtschaft in den aussertropischen Ländern. 1929. S. I.

之を農産物購買力増加の法則 (Gesetz von der wachsenden Kaufkraft der landwirtschaftlichen Erzeugnisse) と呼んでゐる。⁴⁾ 農産物價格構成が此の法則に服する場合には、それは正常の状態とされる。然し之は一八七五年乃至一九〇〇年の期間に對しては妥當せざりし所にして、ゼーリングは此の農業恐慌の原因をアメリカ西部の穀作擴張に由て惹起されたる穀作集約化の停止、從て收穫遞減法則の作用せざりし事情に歸してゐる。農産物が工業品に比して其の購買力を對等に支持するもその價格構成は國民經濟上正常のと看做し得ず、寧ろ前記の農業恐慌の發生以前及び其の終結以後に於ける農産物購買力増加の傾向が現はるゝとき、始めて正常的狀態と看做し得るものであるとしてゐる。蓋し工業的原料加工に對しては經濟的技術進歩に何等の限界が存せざるに反し、一定面積に於ける動植物の有機的生活體の増加は、他の事情にして同一ならば、比例以上の勞働及び資本財の支出に由て條件づけられるからである。されば農業生産の集約化は農産物の交換價値の騰

貴に由て始めて起り得るものである。然し此の事は常に必ずしも農産物に對する絶對的價格騰貴を意味するものではない。農業生産財及び農民の工業的消費財の價格を低廉ならしむることによつて、農業生産費を増加せしむることなくして農業生産を増加せしむるは工業の任務であるとしてゐる。⁵⁾ ゼーリングの見解によれば、上述の期間に於ける不正常的價格狀態の出現は、未墾地開拓の急速度に基くものであり、且つ新開地の粗放經營の擴張に基くものとなす所にして、一八六〇年に於ける小麥栽培面積は六五〇萬ヘクタールであつたが、一八八〇年と一九〇〇年とは夫々一、四〇〇萬ヘクタール及び一、七二〇萬ヘクタールに増加せる事實より之を立證してゐる。⁶⁾

上述のゼーリングの見解に對してスツデンスキイは之を論駁して曰く、第一にゼーリングの理論は事實と一致せざる恨があるとする。何となれば農業の集約化と粗放化とは多數の地方に於て全然同時に現はれし所にして、且つ農業の集約化は農産物購買力の増加を無

4) Sering, a. a. O. S. 2.
5) Sering, a. a. O. s. 107.
6) Sering, a. a. O. S. 3.

條件に前提とするものではないからである。第二に農業生産及び農産物の價格發展は未墾地開拓速度よりして説明されない。小麥栽培の擴張は一八七五年乃至一九〇〇年の農業恐慌の原因にあらずして寧ろ其の隨伴現象である。眞の原因は前世紀の後半に於てアメリカの農業を根本的に變革せしめたる、且つ英吉利より起れる産業革命によつて促されたる所の巨大なる機械發展に基くものにして、前世紀の五六十年代のアメリカの工業化は、最初國內市場に於ける農産物の販路を開拓し、次に鐵道及び海運の完成を俟つて世界市場に於て其の販路を開拓した。併し乍ら農業の同時的技術革命なくしては、上述の發展は起り得なかつた所であると主張してゐる。而して第一點を立證するため左の統計を擧げてゐる。

年 次	農産物總 産額指數	年 次	耕作總面 積指數
一八六六年乃至一八七五年	一〇〇	一八七〇年	一〇〇
一八七六年乃至一八八五年	一五九	一八八〇年	一三一
一八八六年乃至一八九五年	二〇四	一八九〇年	一五三
一八九六年乃至一九〇五年	二三三	一九〇〇年	二〇六

農産物の總産額は耕作面積よりも急速に増加してゐる。之に由て農産物増加はゼーリングの云ふ如く、農業の集約化を犠牲にせる單なる新開地の粗放的開拓に依てのみ起れるものとは解せられないと主張してゐる。第二の點に關してはスツデンスキイは農業機械の効果を贊美し、南北戰爭以後に於ける急速なる農業機械の發達を引用し、之に由て一八九〇年には小麥栽培地の一エーカー當りの犁耕、耙耕及び播種費用が一八三〇年の夫に比して四分の一に低下し、連枷を以てする場合には一人の勞働者は一日に六乃至一二ブッシェルの小麥を打穀し得るに過ぎざるに、蒸氣打穀機を以てするときは一日によく二千ブッシェル以上の小麥を打穀し得ると稱してゐる。而して新農業技術の普及は工業に於ける如く不斷に行はるゝものではなく、多少突然的のものである。其の理由は(1)農業に於ける新技術の一般的普及には通常永き實驗期が先行する。(2)新技術の普及は緩慢であり、且つ最初新技術は傳來のものと並立して行はれるが、新技術が舊技術を全然驅逐し、其

7) Stüdensky, Entwicklungslinien der landwirtschaftlichen Weltproduktion. (in Weltwirtschaftliches Archiv, Bd. 31. Heft 2. 1930. S. 474.)

の全力を發揮し得る場合に於て初めて農業恐慌が起るものであつて、一八七五年乃至一九〇〇年の農業恐慌は正に農業新機械普及の斯る時機に遭遇せるものであると主張してゐる。⁸⁾

以上に由て一八七五年乃至一九〇〇年の農業恐慌に關する兩者の見解を比較した。上述の期間に於て、アメリカ農業が粗放經營に由てのみ其の生産量を増加したるものとは考へられざるも、又他方に於て集約化に由てのみ生産量を増加したるものとも考へられざることは上掲の統計よりするも明らかなる處である。農業機械がアメリカに於て重大なる役目を演ぜることは之を看過し得ざるも、⁹⁾ スツデンスキイの如く農業機械化のみよりして前期の恐慌を説明せんとするは餘りに極端に失する。何となればアメリカの農地の擴張率は左の數字を示せるからである。¹⁰⁾

年次	農地總面積(百萬エーカーを單位とす)	農地面積の擴張率(%)
一八五〇年	一一三、〇	
一八六〇年	一六三、一	四四・三
一八七〇年	一八八、九	一五・八

一八八〇年	二八四、八	五〇・七
一八九〇年	三五七、六	二五・六
一九〇〇年	四一四、五	一五・九
一九一〇年	四七八、五	一五・四
一九二〇年	五〇三、一	五・一

即ち一八七〇年代より一九〇〇年に至る期間に於て、迅速なる耕地増加率を認めなければならぬ。從てゼーリングの主張にも一面の眞理あることは之を認めざるを得ない。

三 一九二〇年以後の農業恐慌に關する兩者の見解

アメリカに於ては一九二〇年の恐慌以來、農業の不況が問題とされてゐる。工業は比較的迅速に不況から回復したるも、農業は今日尙ほ價格下落に苦んでゐる。アメリカの農民が販賣する總生産物の價格と彼等が購買する總商品價格との比率が示す指數は、一九一四年乃至二七年(一九〇九年乃至一四年の比率を一〇〇とす)に於て夫々、一〇一、九五、九五、一一八、一二二、一〇二、九九、七五、八一、八八、八七、九二、

8) Studensky, a. a. O. s. 475.
 9) Faulkner, American economic history p. 426.
 10) Sering, a. a. O. S. 13. 11) U.S. Department of Agriculture. Bureau of Agricultural Economics. Division of Statistical and Historical Research. Washington. 1928. p. 7.

八七、八五、となつてゐる。¹¹⁾ また歐洲に於ても同様な現象が認められる。此の農業不況の原因は何處に存するであらうか。ゼーリングは前世紀の恐慌の如く、移住地の粗放經營による迅速なる生産増加に基く過剰生産に之を歸してゐない。それは今日に在ては好都合なる氣候や交通事情を有する低廉なる廣大な土地は既に存せず、また歐洲一般の貧困化と農民の都市集中とに基いて、移住地に在ては農業勞働に熟練せる資力を有する移住者を缺くからである。¹²⁾ 更に氏は小麥價格の低落は、輸出國に於ける農業機械化による生産費の低下にも歸し得ないとしてゐる。何故なれば動力機又は刈取打穀機による生産費の實質的低下は、氣候や地質に恵れたる地方にのみ起るからである。小麥栽培地方に於ける一割の生産費節減は、若しも小麥の需要を越ゆる生産の擴張を伴ふならば、世界市場の上にその作用を及ぼすであらうが、上述の機械化は收穫の増加を伴ふものではない。農業の機械化によつてより、僅少な人力と動物力とを以て同一面積の土地を耕作し得るが、然

し耕作の急速なる擴張に對する社會的障害、就中資力ある移住者の不足は除去される得るものではないとしてゐる。¹³⁾ さればゼーリングは今日の農業不況の原因は之を農産物の生産方面に歸せず、農産物の需要方面殊に歐洲諸國の工業従業者の購買力減退に歸してゐる。彼は此の購買力減少の徴候として失業者の繼續的増加、資本利子の騰貴、租税負擔の増加を挙げ、之が原因を戰費と外債負擔とに歸してゐる。¹⁴⁾

スツデンスキイは之に反して今日の農業不況を生産方面の原因に歸する。アメリカに於ては一九一七年—二二年乃至一九二二年—二六年間に、耕作面積は約一、三〇〇萬エーカー減少せるに拘らず、總農生産額は一三・五%の増加を來してゐる。從て單位面積當りの生産力の増加は、此の期間に一六・五%を増したこと、なる。一九二五年以後に於ては耕作面積は多少増加せるも、右の生産量増加は眞の集約化に歸すべきものとしてゐる。而して此の農業不況と集約化との競合原因は之を生産條件の變化に求むべきものとする。彼は今日

12) Sering. a. a. O. s. 107.
13) Sering. a. a. O. s. 108.
14) Sering. a. a. O. s. 109—115.

の農業不況の性質に就て約言して曰ふ、(1)今日の農業不況は一九二〇年の恐慌の單なる繼續ではない。(2)今日の不況は寧ろ世界的農業、殊に穀作に於ける著しき機構の變化に導く所の重大なる農業恐慌の端緒である。(3)此の恐慌は不可避免的であり、一九二五年のデフレーション及び恐慌の出現とは關係なく、唯之に因て促進されたるに過ぎない。(4)今日の農業恐慌の原因は内燃發動機によつて惹起されたる異常なる技術的革命に求むべきであり、之が重大性に就ては今日尙ほ世人は正確なる概念を有せないと云つてゐる。¹⁵⁾彼は此の技術的革命を以て決して妄想にあらずとなし、事實上實證され得るものとしてゐる。一九二五年に於てアメリカに於ては五〇六、七四五臺のトラクターが利用されたるが、一九二八年には七六八、八二五臺が利用さるゝに至り、此等のトラクターと貨物自動車によつて、アメリカの農場より七五〇萬頭の馬匹を遊離せしめた。加ふるにトラクターの利用により農業生産費は著しく低下し、農業生産力は大いに増加したと云つてゐる。

即ち馬匹使用によるときは一時間に於ける一馬力の經費は二五仙を要するに、トラクターによるときは僅に六仙に過ぎない。更に刈取打穀組合せ機(Combined harvester-thresher)の利用は、從來の刈取打穀機に比して、小麦の生産費を一五乃至二〇%低下せしめ得たとしてゐる。一般に今日信ぜらるゝ所によれば、トラクターは生産費を低下するも生産量の増加を來たすものにあらずとされてゐる。¹⁶⁾然るにスツデンスキイはトラクターは農業生産の速度を増すことによつて、生産量の増加をも齎すものとする。耕作に於てトラクターと馬匹動力とが同一價值を有するものとするも、前者による作業の迅速と同時的耕耘及び播種とによつて生産の増加を來たすものである。トラクターは凡ての農業勞働を一年を通じて適當に配分せしめる。また刈取打穀組合せ機は數週早き刈取を可能ならしめ、カンサスに於ては此の理由からするも一エーカー當り九ブツシエルの増收を齎してゐる。¹⁷⁾斯の如く農業經營の一部分に於けるトラクターの利用は、農業不況の原因であり、新技

15) Studensky, a. a. O. s. 478-479.

16) Römer, Beobachtungen auf dem Gebiete des Ackerbaus in Vereinigten Staaten von Nordamerika. Berlin 1926. s. 31.

17) Studensky, a. a. O. s. 486.

術の競争は、農産物價格水準を引下げ、大農をして生存を可能ならしむる價格は小農を破壊するものと解してゐる。

最後にスツデンスキイは前世紀の農業恐慌と今日の夫とを共通の農業機械化の原因に歸するも、尙ほ兩者の間には次の如き本質的差異あることを指摘してゐる。即ち(1)前世紀の農業恐慌は牛馬によつて牽かる、作業機の方面に於ける發展によつて惹起されたが、今日の夫は發動機により、第二次的には勿論作業機自體の發達によつて惹起された。今日の恐慌は一層根深く、凡ての國の農業は其の全般に亘て有機的、技術的並に社會的關係に於て變革さるゝであらう。(2)然るに拘らず激しき恐慌は最初は緩慢なる不況の性質を帶びる、蓋しこれは既に著しき工業品と農産物との價格の開きを惹起せる國際的デフレーションの直接結果として現れたからである。(3)前世紀の恐慌は歐洲の農業を最も激しく動搖せしめ、其の廣大なる構造の變化を促した。然るに今日の恐慌は一面的に穀作を襲ひ、此の理由よ

り廣大なる牧畜を持つ歐洲よりも、アメリカを激しく襲ふた。(4)前世紀の場合に於ては唯に歐洲の穀物栽培經營のみならず、新機械を採用し得ざる幾多のアメリカ小農經營をも襲ふた。然し此の恐慌は主として地理的對立關係中に現はれた。即ちアメリカの穀物と歐洲の夫との對立關係、西部アメリカの小麥と東部アメリカの小麥との對立關係に於て現はれた。然るに今日の恐慌に於ては斯る地理的對立關係は、しかく明瞭に現はれざる所である。蓋し相對的運賃は前世紀の恐慌當時の如く急低下を示さず、寧ろ大戰後相對的騰貴を來せるからである。然るに今日の農業恐慌に於ては現存の農業範圍内に於て顯著なる諸變化、即ち大農化、農業に於ける大資本力を擁する株式會社の出現等を促したと主張してゐる。⁽¹⁸⁾

四 結 言

以上に於てゼーリングとスツデンスキイとの今日の農業恐慌の原因に關する所説を簡單に紹介した。前者

18) Studensky, a. a. O. s. 488.

は消費方面殊に歐洲工業人口の購買力減退に之を歸し、後者は農業機械化による過剰生産に之を歸してゐる。何れも一面の眞理を有することは之を争はれない。殊に今日の農業不況は穀類栽培地方に激しい。之は穀物の世界的消費が戦後歐洲及びアメリカに於て減退してゐることに基いてゐる。此の原因はゼーリングの云ふ如く、一部分は工業人口の購買力不足によるものであるが、他方に於て一般國民の福祉増進による他の食料品（蔬菜、肉類）の増加に基くことも之を否認し得ない。或人は之を以て文化現象の一表象と解し、或人は之を以て榮養攝取の合理化なりと解する。¹⁹⁾また他方戦時の穀物價格騰貴に促されて、機械化によつて生産を増加せしめたることも之を否み得ない。従て現時の農業不況は生産消費の兩面の原因より起れるものであり、スツデンスキイの如く農業機械化のみによる生産力の發展に歸し、更に今日の恐慌を以て更に大いなる世界的農業恐慌への序曲なりと解するは餘りに極端なる主張たるを逸れない。蓋しアメリカに於ても小麥價

格が生産費以下に低下すれば漸次其の生産を縮少し、従て久しからずして需給の均衡状態を出現すべく、需要減退せるに小麥を栽培するとは考へられず、又機械化によつて大經營の優越を促すとは農業本來の有機的生産の性質よりして信ぜられず、又統計的事實よりするも俄に賛同し得ざるからである。

19) Strakosch, Das Agrarproblemen im neuen Europa. 1930. s. 389.